



10/13 2024
(日)

プロムナードコンサート No.409

PROMENADE CONCERT

会場：サントリーホール

指揮／ライアン・ウィグルスワース

ピアノ／イモーゼン・クーパー

モーツァルト：

ピアノ協奏曲第23番 イ長調 K.488

(約26分)

ベートーヴェン：

交響曲第3番 変ホ長調 op.55 《英雄》

(約50分)

ホールでの
過ごし方

- ◎携帯電話や音の鳴るモノは電源を切りましょう。
- ◎演奏中はお話ししないで静かに聴きましょう！周りの人も演奏を楽しみに来ています。
- ◎公演中の録音・録画、写真撮影は禁止です。終演後のカーテンコール時のみ写真の撮影が可能です。

PROGRAM NOTES

今日のコンサートでは、「古典派」とよばれる18世紀の終わりから19世紀に活躍した、モーツァルトとベートーヴェンというクラシック音楽の中でも特に有名な2人の作品を聴いてもらいます。指揮はイギリス出身で作曲家としても活躍するライアン・ウィグルスワースさんです。

モーツァルト：ピアノ協奏曲 第23番 イ長調 K.488

最初に演奏されるのは、ピアノ独奏とオーケストラとで演奏される「ピアノ協奏曲」です。作曲者のヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756~91)は、幼い頃から鍵盤楽器の演奏が大の得意で、お父さんに連れられてヨーロッパ中を周って演奏を披露しました。その“神童”ぶりは、オーストリア女帝の前で演奏するチャンスをもらうほど、広く知れ渡りました。



Wolfgang Amadeus Mozart



モーツァルトが愛したアントン・ヴァルター制作のフォルテピアノ(1810年：ベルリン楽器博物館)
©Gérard Janot

モーツァルトは11歳から35歳で亡くなるまでの間に、ピアノ協奏曲を32曲も(番号を付けていないものや2台ピアノのものも含めて)残しています。その多くは、音楽の都ウィーンで活躍していた20代の頃に作りました。当時のウィーンは、文化や経済や政治の中心地。人々はつねに新しい刺激を求め、音楽文化も盛んでした。モーツァルトは、裕福な貴族の屋敷に招かれたり、自分でコンサートを企画したりで大忙し。家のピアノをしょっちゅう会場に運び出し(当時の楽器は今のピアノよりはずっと軽いのです)、毎晩のようにどこかで演奏していたそうです。そんなモーツァルトのピアノ協奏曲は、それまでのピアノ協奏曲にはないほど色鮮やかで、当時のウィーンの人々を夢中にさせました。ピアノ協奏曲というジャンルをしっかりと確立させたのは、モーツァルトだとも言われています。

本日演奏する第23番イ長調は、モーツァルトがもっとも華やかに活動していた時期(1786年、30歳の時)に完成された、人気の高い作品です。イ長調という明るく朗らかな調性で書かれ、**第1楽章**はうっとりするようなメロディーで始まります。**第2楽章**は打って変わって、驚くほど哀しい表情へと変化します。**第3楽章**では再び明るく陽気なフィナーレとなります。オーケストラはオーボエが使われておらず、当時はまだ新しい楽器だったクラリネットが用いられています。

ベートーヴェン：交響曲第3番 変ホ長調 op.55 《英雄》

後半は、モーツァルトよりも14歳年下で、同じくウィーンで活躍したルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770~1820)の交響曲です。交響曲とは、オーケストラが演奏するスケールの大きな作品のこと。ベートーヴェンは生涯に9つの交響曲を残しました。

交響曲第3番《英雄》は、1804年の夏、ベートーヴェンが33歳のときに書き上げました。作曲していた頃、ヨーロッパでは「ナポレオン戦争」



Ludwig van Beethoven

が起きていました。フランスの軍人ナポレオン・ボナパルトが、「自由・平等・博愛」の精神をかかげ、フランスを強い国にして、人々が平等に活躍できる社会を作ろうと、ヨーロッパ中の国々と戦争をしたのです。

ベートーヴェンは、新しい時代を切り開こうとするナポレオンの姿に感激し、彼を讃えた交響曲を作ろうと考えました。それがこの交響曲第3番です。楽譜の表紙には、ナポレオンの名前である「ボナパルト」というタイトルを書きました。ところが、その文字はあとから「シンフォニア・エロイカ」に書き換えられました。「エロイカ」とは「英雄」という意味です。ベートーヴェンはこの曲を、ナポレオンに捧げるのをやめたのです。

なぜやめたのかという理由はいろいろと伝えられていますが、弟子のフェルディナント・リースの伝えるところによると、市民の味方であり英雄であると信じていたナポレオンが、1804年5月に皇帝の座に就いたことを知ったベートーヴェンは、大激怒したそうです。「あいつも、ただの欲張りな人間にすぎなかった！」と叫び、楽譜の表紙を破り捨てたというエピソードが知られています。

第1楽章は、2発の力強い和音をオーケストラ全体で打ち鳴らしてスタート。すぐに朗々としたメロディーがチェロで奏でられ、壮大なドラマが始まります。第2楽章は重々しい雰囲気「葬送行進曲」となります。第3楽章は陽気な音楽となり、中間部では3本のホルンが活躍します。第4楽章は短く勢いのある序奏に続き、弦楽器のピッツィカート（弦を指で弾く奏法）でテーマが奏でられたあと、7つの変奏が続きます。3つめの変奏でオーボエがもう一つの重要なメロディーを奏でます。全体の演奏時間はおおよそ50分という、堂々とした音楽です。



ナポレオン・ボナパルト

文／飯田有抄（クラシック音楽ファシリテーター）

【オーケストラ配置図】

10/13 プロムナードコンサート No.409



※楽器の配置は一例です。

当日のステージで確認してください。



©Benjamin Ealovega

指揮

ライアン・ウィグルスワース Ryan WIGGLESWORTH, *Conductor*

2022年よりBBCスコティッシュ交響楽団首席指揮者を務めている。2015年～18年ハレ管弦楽団の首席客演指揮者やイングリッシュ・ナショナル・オペラ(ENO)、グラフェネック音楽祭のコンポーザー・イン・レジデンスを務めた。これまでに英国ロイヤル・オペラやENOで数々の公演を指揮するほか、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団、バイエルン放送交響楽団などに客演。

作曲家としては、2017年にENOで新作オペラ『冬物語』を初演。ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団より委嘱された新作を自身の指揮で初演。

2019年から英国王立音楽院の教授を務めている。彼の世代の中で最も才能豊かな作曲家・指揮者の一人として認められている。



©Sim Canetty-Clarke

ピアノ

イモーゲン・クーパー Imogen COOPERS, *Piano*

現代における古典派とロマン派の最も優れた解釈者の一人。近年はサイモン・ラトル指揮ロンドン交響楽団、マーク・エルダー指揮ハレ管弦楽団などとの共演や、ロンドン、ニューヨーク、ワシントンDCなどでリサイタルを行っている。

室内楽にも精力的に取り組んでおり、ヘニング・クラッゲルード(ヴァイオリン)やエイドリアン・ブレンデル(チェロ)と定期的に共演するほか、ヴォルフガング・ホルツマイアー(バリトン)との長年の共演を経て、イアン・ボストリッジ(テノール)、サラ・コノリー(メゾソプラノ)らの歌手とも共演している。

2021年に大英帝国勲章DBEを叙勲。2015年にイモーゲン・クーパー音楽トラストを立ち上げ、若いピアニストたちをサポートしている。

東京都交響楽団

Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

東京オリンピックの記念文化事業として、東京都が1965年に設立しました。都響(ときょう)という愛称で親しまれています。

東京文化会館(上野)を本拠地としてサントリーホールや東京芸術劇場などで定期的にオーケストラの演奏会を開催しています。交響組曲『ドラゴンクエスト』(全シリーズ)や『Fate/Grand Order』などゲーム音楽の演奏や、都内の小中学生を対象に開催している音楽鑑賞教室、病院や福祉施設への出張演奏など多彩な活動を展開しています。2021年7月に開催された【東京2020オリンピック競技大会】開会式では、「オリンピック賛歌」の演奏(大野和士指揮/録音)を務めました。



© Rikimaru Hotta



<https://www.tmsso.or.jp/>



都響ヤングシートは、企業や団体からご支援をいただき、サントリーホールでのプロムナードコンサート、東京芸術劇場での定期演奏会Cシリーズなど、休日昼間の都響主催公演を中心に青少年をご招待し、オーケストラコンサートをお楽しみいただいています。ご支援企業については月刊都響をご覧ください。